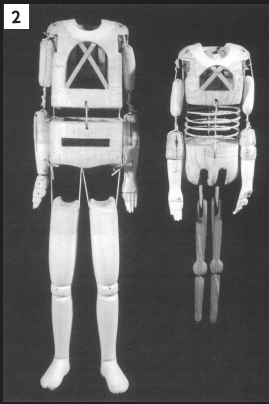




写真解説 右頁

「雪ん子」 (昭和 32 年)
「雪ん子」は雪の精の意味で、豪雪で両親を失った少女との切ない出会いと切ない恋を描く。「竹田人形座」の出世作。

① 工房で人形を製作する竹田喜之助。
② 糸あやつり人形の骨組み。
(左:男の人・右:女の人)
胴体に男の人と女の人で脚部の有無の違いがある。女の人では、日本女性独特の立ち居振る舞い、一方男の人では、見栄を切ったり、座った場合の形の良さを追求した結果、構造が異なっている。



- ③ 「古道成寺」 (昭和 38 年)
- ④ 「プルル君」 (昭和 48 年)
- ⑤ 「橋弁慶」 (昭和 30 年)
竹田喜之助が最後の舞台上で操った弁慶の人形。
- ⑥ 「黒姫ものがたり」(昭和 42 年)
- ⑦ 「百合若」 (昭和 49 年)
- ⑧ 「竜の子太郎」 (昭和 49 年)
- ⑨ 「獅子舞」 (昭和 34 年)
- ⑩ 「御存知鈴ヶ森」(昭和 31 年)
「鈴ヶ森」の雲助の首は、人形デザインをせず直接木彫りに彫ったものであり、顔の前半分が割れて落ちる「梨割れ」など首にさまざまな仕掛けが施されている。

写真提供: 島 隆諦氏
「雪ん子」の写真など



竹田 喜之助、来年生誕100年

特別 特集 受け継がれる生命

瀬戸内市が世界に誇る糸あやつり人形師竹田喜之助。来年生誕 100 年を迎えます。竹田喜之助から受け継がれた糸あやつり人形劇一。脈々と受け継がれる生命とは…。特別特集として竹田喜之助と喜之助の生命を受け継ぐ人たちについて紹介します。

竹田喜之助について

本名 岡本隆郎 (おかもと たかお)

大正12年6月27日、瀬戸内市 邑久町豊安の呉服商の長男として生まれた。子どもの頃から文楽が好きで義太夫をうなり三味線を器用に弾いた。一方絵画にも堪能で幅広い趣味の持ち主だった。岡山第一中学校(現朝日高校)から第六高等学校(現岡山大学)を経て、東京帝国大学(現東京大学)工学部航空工学科へ。

昭和25年3月結城孫太郎(後の竹田三之助一座)の公演に魅せられて人形劇にとりつかれ、一座に入座。結城系城三を名乗り、人形師の道を歩み始めた。昭和30年4月竹田人形座となり、竹田喜之助となる。

300年の伝統を持つ竹田人形芝居をふまえながら、人形からくりや、使用材料に画期的な工夫を凝らし、旧来の人形に新しい生命を吹き込んだ。

どの人形も彼の優しく、温かく、厳しい人柄を映し出し、見る者に深い感動を与え、多くのファンを生んでいる。

誕生 喜之助人形

第二次世界大戦後、日本に駐屯していた軍周りのショーの合間に、竹田喜之助が何気なく彫り始めた木片…。そのナイフの動きを見た竹田人形座を主宰していた竹田扇之助が首を彫ってみたらと勧めたのがきっかけだった。

その日から人形工房の一隅に端座して、竹田喜之助の30年間にわたる人形づくりは始まる。手板や胴体の研究に加え、西洋の学問の中でも近代的な航空工学を人形の世界に持ち込み「竹田の糸あやつり」として独自のものを作り上げていった。

昭和36年、人形制作数が1000体を超えたところで初めての人形展を東京・白木屋で開催。直木賞作家・安藤鶴雄氏は、「日本の糸あやつり人形は、喜之助という一人の作家を得て、何十年かの急速な進歩を遂げた。」と激賞し、「喜之助人形」と命名。新しい時代の息吹にあふれた人形たちは喜之助の名を世に広めるとともに、糸あやつり人形師・喜之助の誕生した瞬間でもあった。



人形の魅力は、可能性が無限だということ。人形なら、なんでも作れますし、どんな動きでも表現できます。また、どんなにイメージを広げても制約がありません。こんなに自由なジャンルはないと思っています。人間の役者さんやダンサーでは表現できない人形だから可能な「人形としてのリアリティー」を追求して舞台表現をしています。

人形劇は子どものものという枠を超え、大人も楽しめる芸術としての舞台空間を目指していきます。

かわせみ座

人形師 ^{やまもと}山本 ^{よしや}由也さん

竹田人形座の人形に魅せられ、竹田人形座へ入る。その後、竹田喜之助の人形への想いを受け継ぎ、1982年に劇団を創立。

「人形の
可能性は無限」

「人形劇で
バトンをつなぐ」



竹田人形座

人形師 ^{すずき}鈴木 ^{ともこ}友子さん

竹田喜之助の弟子として、竹田人形座で活躍。瀬戸内市のアマチュア人形劇団への指導育成に貢献。

喜之助の生命を受け継ぐ人たちの「人形劇」への想い



喜之助人形劇フェスタ市民実行委員会

委員長 ^{うちだ}内田 ^{あきお}明生さん

「糸あやつりの人形劇
を瀬戸内市の文化に」

喜之助人形劇フェスタの特色は、プロの劇団やアマチュアの劇団の育成にまで糸あやつりの人形劇にこだわり抜いたところです。これは、喜之助さんが糸あやつり人形師であったことと他にはない人形劇を作り上げたいという思いからです。

人形劇は、心の教育が叫ばれる時代にあつて、人々のやさしい心を育てる教育であり、地域文化だと思っています。

今後も、人形劇を瀬戸内市の文化に、そしてまちづくりにつなげられるようにしていきたいですね。

「人形劇を通して
平和にしたい」

糸あやつり人形は、実は歴史が長く長い。けれども、完成しきつていないところに面白さがあります。人形劇の面白さや楽しさは子どもに伝えたいのほもちろんですが、もともと人形浄瑠璃など、大人も見えて楽しんでいたの、大人にも見てもらいたいです。

また、小さい人形を見てもらつて可愛いと思う人が増えれば、世の中は悪くならない。大袈裟に聞こえるかもしれませんが、人形劇を通して平和にしたいと思っています。

糸あやつり人形劇団 ^{みのむし}みのむし

人形師 ^{いひむろ}飯室 ^{こういち}康一さん

テレビ番組で見た竹田喜之助に感銘を受け、竹田人形座に入る。その後、1975年に劇団を創立。

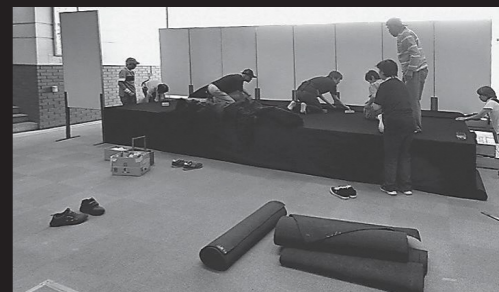


喜之助の偉業を後世に受け継ぐ

喜之助人形劇フェスタ市民実行委員会



2021年喜之助人形劇フェスタ時に撮影



(右) 喜之助人形劇フェスタの準備の様子。
(左) 喜之助人形劇フェスタに向けての実行委員会。ポスター案を入念にチェック。

「一人でも多く ふれあいと感動を」



喜之助人形劇フェスタにて人形を操る子どもたち

継承される人形劇

竹田喜之助の生命は、喜之助人形劇フェスタ市民実行委員会を中心となり、守り続けられています。竹田喜之助顕彰会などの団体や市民など現在26人が所属し、近年では、子どもたちの体験活動や人形劇の教室など、郷土芸能への興味や関心を高める活動に積極的に取り組んでいます。

今年、33回目の喜之助人形劇フェスタ。竹田人形座で活躍される鈴木友子さんをはじめ、さまざまなプロやアマチュアの劇団が多彩な人形劇を演じられます。受け継がれた生命……。人形たちの言葉を自分の目で確かめてみませんか。

受け継がれてきた人形劇。

その生命を引き継ぐべく立ち上がった人がいる。

全身全霊を込め人形を操る。

伝わるだろうか

人形の息吹が。

聞こえるだろうか

人形の語り合う声が。

体験して欲しい。

伝えていきたい。

大好きなまちの大切な宝だから。

特別特集 受け継がれる生命 終



第33回喜之助人形劇フェスタ

11月19日(土)・20日(日)

19日(土) 9:30~16:00

20日(日) 10:00~16:10

19日: 開場 9:00~/20日: 開場 9:30~

会場 / 瀬戸内市中央公民館 2F ホールほか

料金 / 3歳~中学生 500円 大人 1,000円 (全席自由)

※チケットは、当日会場でお買い求めください。

問 喜之助人形劇フェスタ市民実行委員会事務局

☎ 090-8247-4680

